



2025年3月期（3Q）決算説明資料

データセクション株式会社

2025年2月27日

証券コード：3905



1. 2025年3月期（3Q）実績
2. 2025年3月期 計画
3. 新戦略（AI関連新規事業）
4. 新規予約権発行によるファイナンス
5. Appendix

1. 2025年3月期（3Q）実績

- 国内事業全領域での貢献に加え、7月1日付で完全子会社化したMSS社の寄与、主要な国内外子会社において受注が堅調に推移し、増収（前年同四半期対比+33.0%）

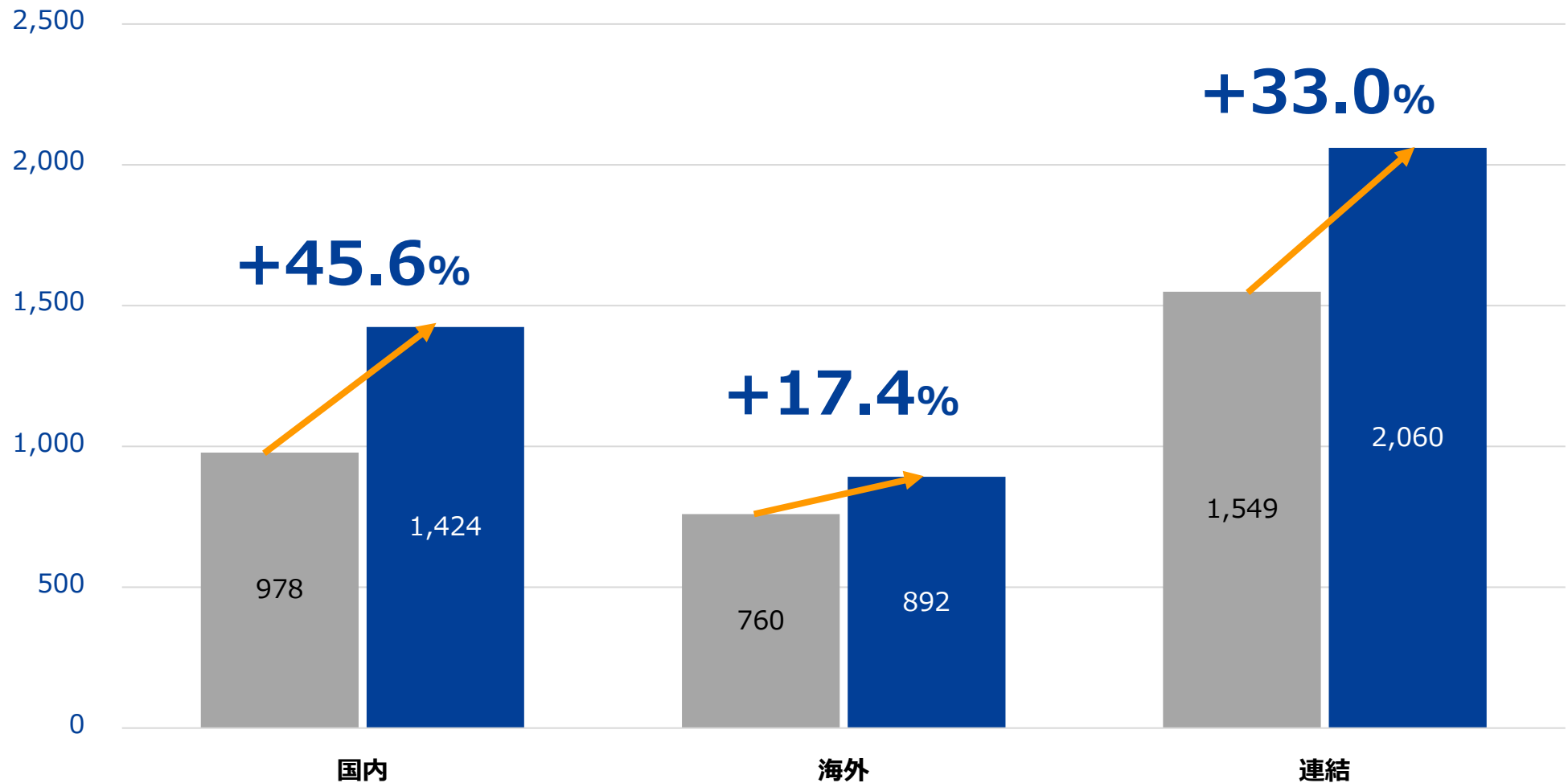
(百万円)	25年3月期(3Q) 実績値	前年対比	
		実績	差分
売上高	2,060	1,549	+511
営業利益	▲281	▲182	▲98
(新規事業関連費用除く 営業利益)	▲136	▲182	+46
調整後 EBITDA*	▲49	▲23	▲26
(新規事業関連費用除く 調整後EBITDA)	95	▲23	+118
経常利益	▲381	▲217	▲163
親会社純利益	▲403	▲852	+448

(*) 調整後EBITDA：営業利益＋減価償却費＋無形固定資産償却費＋株式報酬費用＋M&A関連費用

- ・ 国内・海外ともに成長を継続
- ・ 既存事業のポートフォリオ転換計画どおり、国内事業が成長を牽引

（単位：百万円）

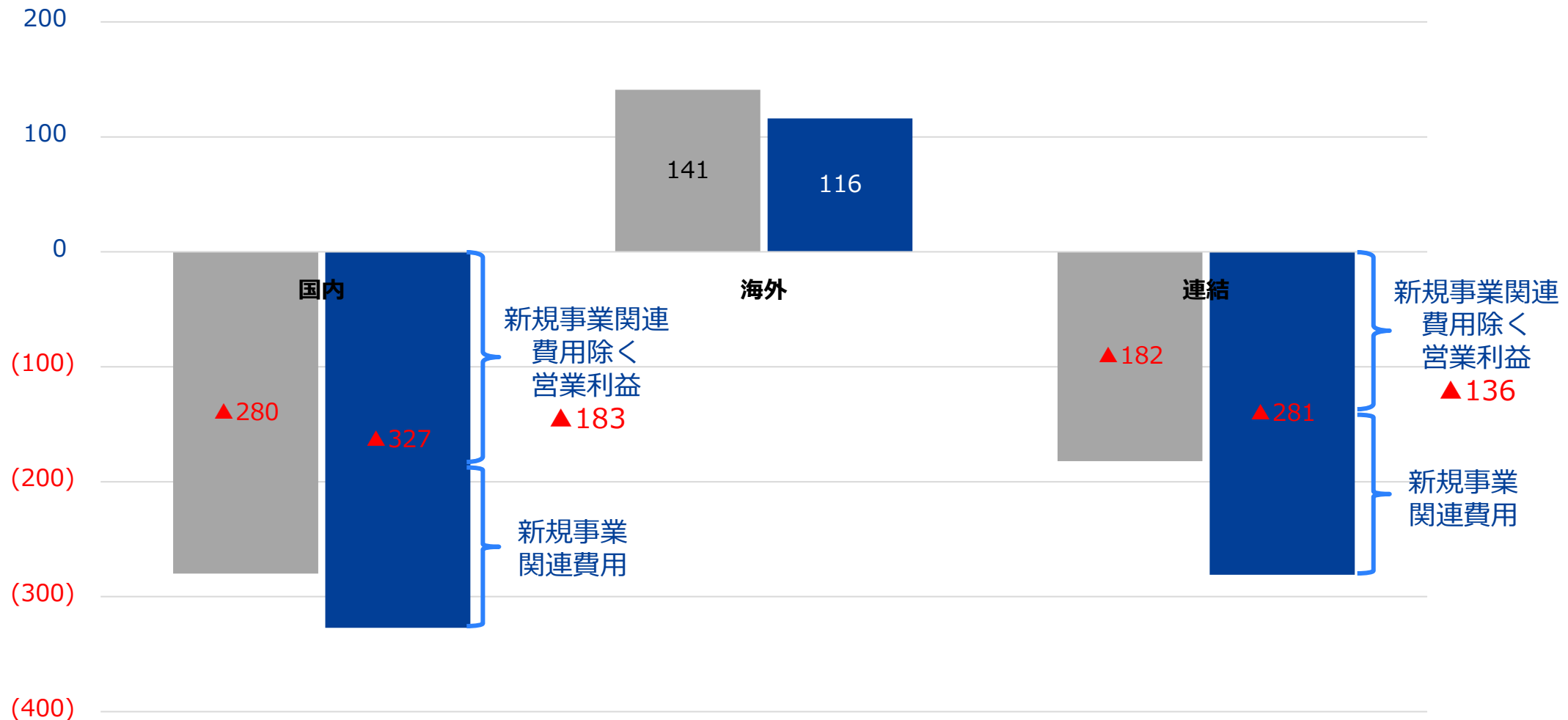
■ 24年3月期3Q ■ 25年3月期3Q



- ・ 単体における体制再構築費用による営業損失を計上
海外は、過年のソフトウェア開発の償却負担を要因に減益となるも、計画の範囲内

（単位：百万円）

■ 24年3月期3Q ■ 25年3月期3Q

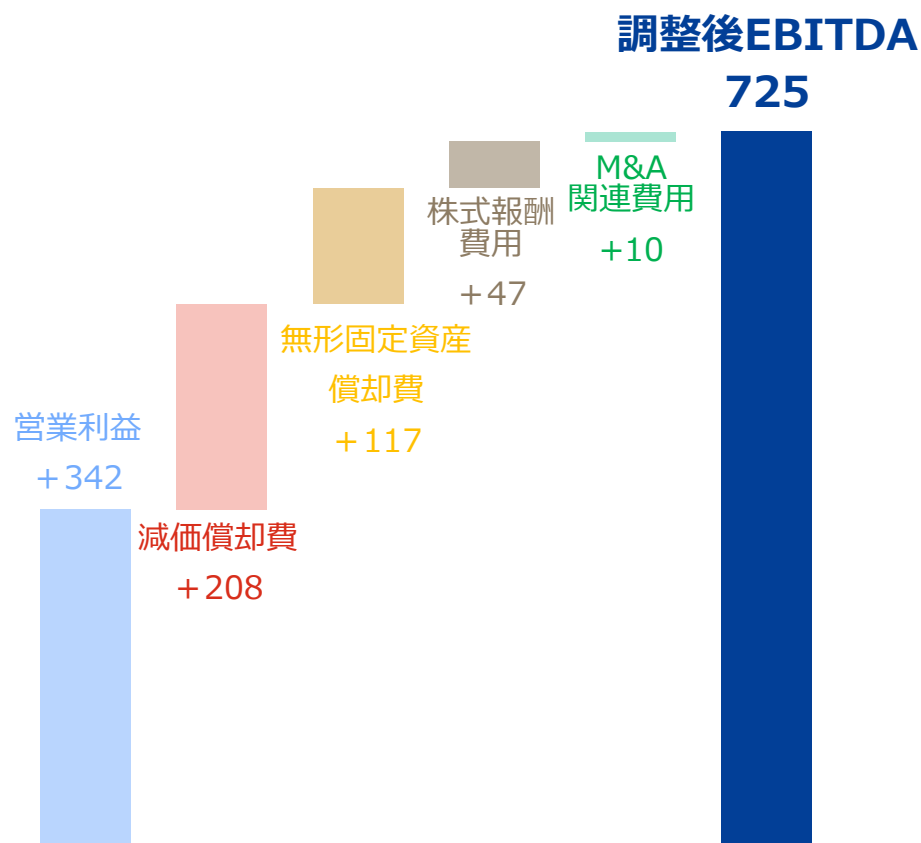


・実質的なCF創出力を示す調整後EBITDAは、年度ベースで黒字化を予定

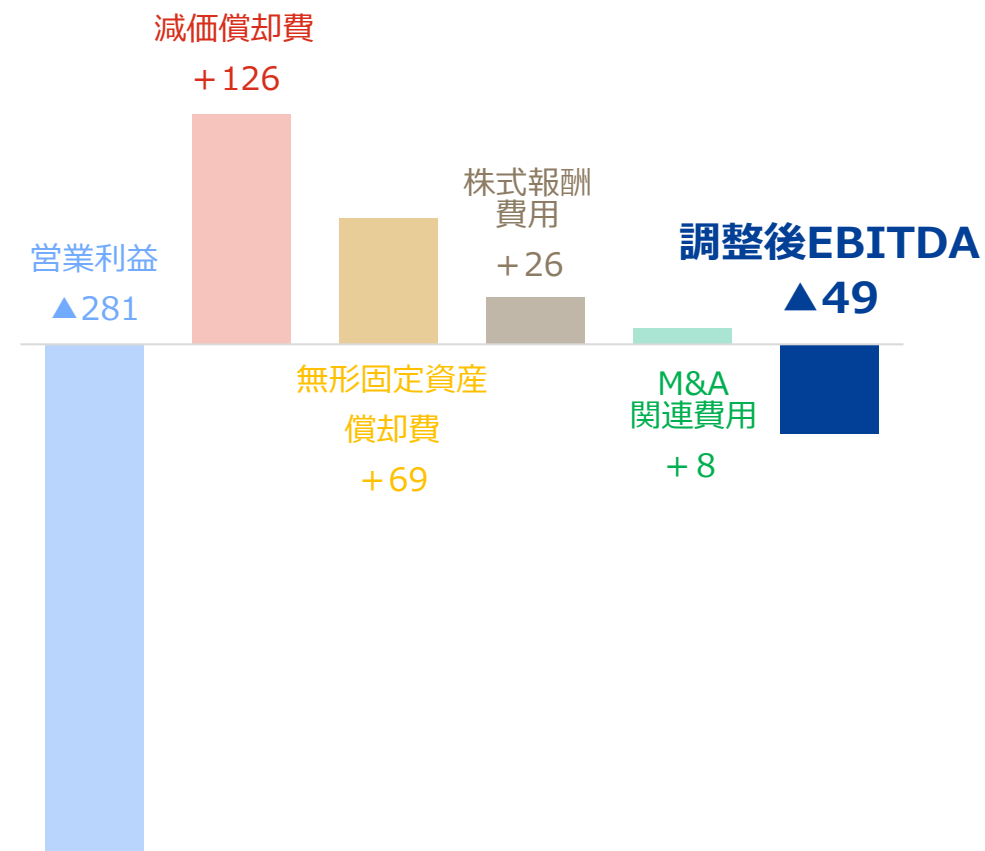
※調整後EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 無形固定資産償却費 + 株式報酬費用 + M&A 関連費用

<25年3月期 上方修正後計画>

(単位：百万円)



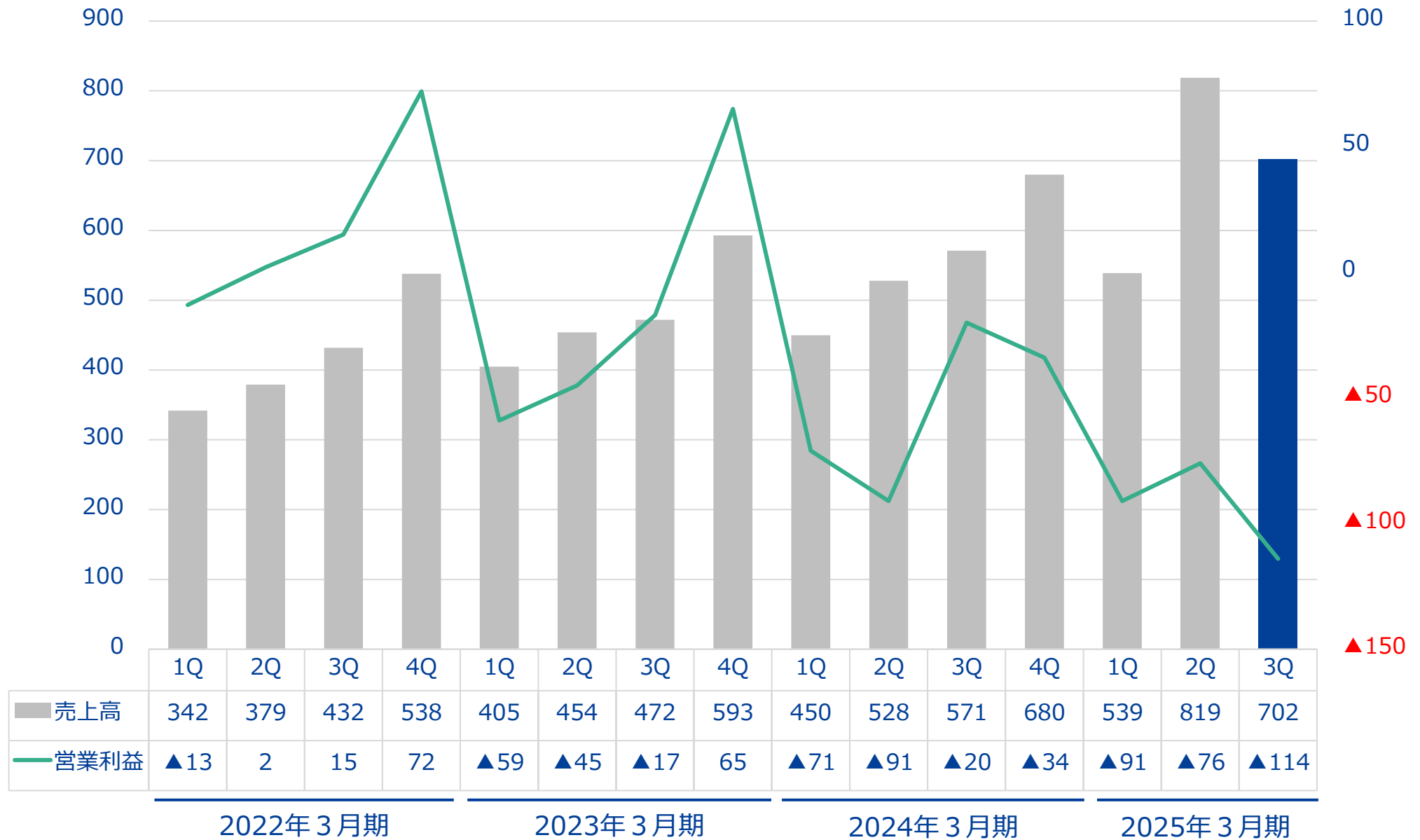
<25年3月期 3Q 実績>



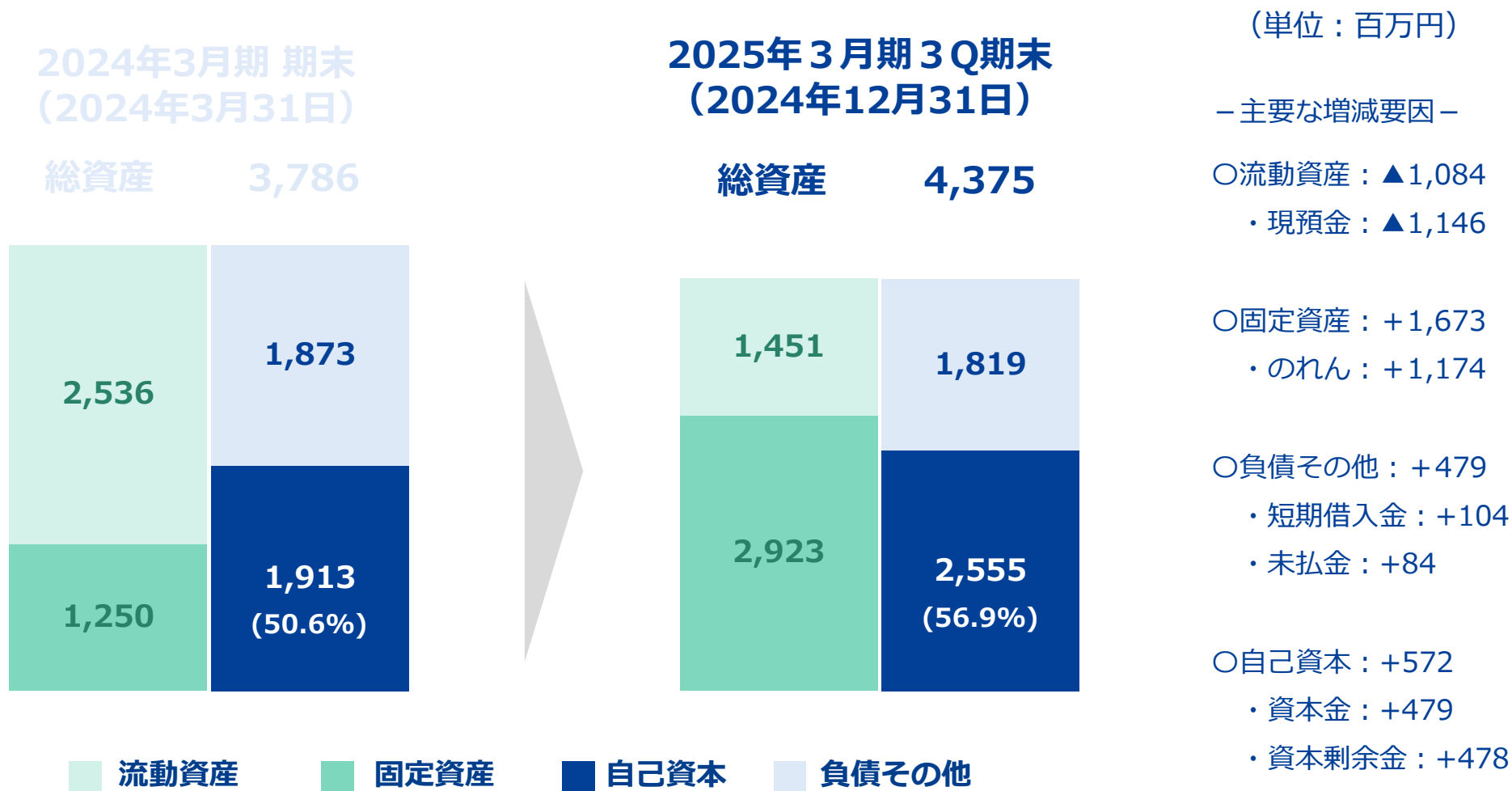
四半期毎売上高・営業利益推移（連結）

1. 2025年3月期（3Q）実績

（単位：百万円）



- ・ 7月1日付で買収したMSS社ののれんを計上（BS連結：1Q末、PL連結：2Q初）した関係で、総資産が増加



- ・ アジア、欧州、米国の3地域でのAIデータセンター事業推進のビジョンをできるだけ早く実現するため、各地域での影響力が大きいマネジメントを招聘
- ・ 監査等委員設置会社とすることで、事業成長に向けた足元のガバナンスをより高める



石原 紀彦
代表取締役社長
執行役員CEO



Pablo Casado Blanco
取締役会長



John Ellis Bush
取締役



土田 誠行
取締役
監査等委員



German Alcayde Fort
社外取締役
監査等委員



平山 剛
社外取締役
監査等委員

- ・ NVIDIA社のパートナーサプライヤーのうち更に4社と業務提携の基本合意
- ・ 大阪府堺市やスペイン向けを始めとしたGPUサーバーラックについて、製造キャパシティを協議開始

NVIDIA社はパートナーのサーバーメーカーが存在



サーバー調達の分散化とボリューム確保状況 （サーバーサプライヤー別の交渉状況）

NVIDIA と世界有数のサーバー メーカーがパートナーを組み、AI クラウド コンピューティングを推進

Foxconn、Inventec、Quanta、Wistron が NVIDIA HGX リファレンスアーキテクチャを利用し、ハイパースケールデータセンター向け AI システムを構築

台湾、台北 Computex -- (2017 年 5 月 30 日) - NVIDIA (NASDAQ: NVDA) は、より迅速に AI クラウド コンピューティングの需要に応えるため、世界有数の ODM である Foxconn、Inventec、Quanta、Wistron とのパートナープログラムを開始しました。

NVIDIA HGX パートナー プログラムを通じて、NVIDIA は、各 ODM に NVIDIA HGX リファレンスアーキテクチャ、NVIDIA GPU コンピューティング テクノロジー、デザイン ガイドラインの早期アクセスを提供します。HGX は、Microsoft の Project Olympus の取り組み、Facebook の Big Basin システム、NVIDIA DGX-1™ AI スーパーコンピュータにおいて利用されているのと同じデータセンター向けに設計されています。

HGX をスターター向けの「レシピ」として利用する ODM パートナーは、NVIDIA と協力し、ハイパースケールデータセンター向けの条件を満たす、さまざまな GPU アクセラレーテッドシステムをより迅速に設計し、市場化することができます。NVIDIA のエンジニアは、このプログラムを通じて ODM とより緊密に協力し、技術の採用から実動環境への展開までの時間が最短になるよう支援します。

NVIDIA HGX リファレンスアーキテクチャ



・データセンター設計・建設の実績・ノウハウを持つ信越科学産業（以下「SSI社」）と、AIデータセンターの設計、調達、建設および運営に関するEPC（Engineering Procurement and Construction）の業務提携に関する基本合意を締結

経営によるコメント

- データセンター設計・建設の実績・ノウハウを持つ SSI社と本基本合意を締結し、AIデータセンターの設計・建設・運営におけるリーディングカンパニーとして、革新的なソリューション提供を目指し、次世代のAIデータセンターのスタンダードを確立し、より持続可能で効率的なサービスの提供を実現します
- 本基本合意に基づき、SSI社は当社のEPCコントラクターとして共同で日本国内外でのAIデータセンターの設計、調達、建設、運営に関する業務を担うこととなります。また、SSI社は AI データセンター建設後の運用・保守業務も担当し、新たなAIデータセンタープロジェクトの組成、資金調達、推進にも取り組みます

(1) 名称	株式会社信越科学産業	
(2) 所在地	長野県長野市大字南長野西後町610-12 R-DEPOT3階N-西	
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役会長 小坂 幸太郎 代表取締役社長 佐坂 五郎	
(4) 事業内容	・データセンター設計・建設	
(5) 資本金	999万円	
(6) 設立年月日	2015年12月28日	
(7) 大株主及び持株比率	SSIとの秘密保持義務により非開示とさせていただきます。	
(8) 上場会社と当該会社との関係	資本関係	該当事項はありません。
	人的関係	該当事項はありません。
	取引関係	該当事項はありません。
	関連当事者への該当状況	該当事項はありません。
(9) 経営成績及び財政状態	SSIとの秘密保持義務により非開示とさせていただきます。	

2. 2025年3月期 計画

- ・ DS AI Infrastructure Global Investment Fundの設立準備が進捗し、期中の事業開始・GP報酬の収受が見込まれること及び、MSS社の連結子会社化による業績影響見直しによる8月14日開示の業績見通しから修正なし

(百万円)	24年3月期 実績	25年3月期業績予想			
		当初	8月14日 修正後	差分 (金額)	差分 (増減率)
売上高	2,229	2,650	3,312	+ 1,083	18.9%
営業利益	▲216	80	342	+ 558	—
調整後EBITDA	47	425	725	+ 678	797.0%
経常利益	▲235	55	317	+ 552	—
親会社純利益	▲1,261	17	217	+ 1,478	—

(百万円)	当初計画	修正計画	増減	補足説明
売上高	2,650	3,312	+662	・ GP報酬：4Qからアセットの50%の運用開始 (@145円) GP報酬の50%を当社グループで収受と想定 売上高：USD2B×@145円×1/4Q×報酬水準2% ×当社グループ収受50%×アセット掛目50% = 362.5M 営業利益：売上高に20%のコストがかかる想定 = 362.5M×80% = 2290M ・ MSS寄与：見込増加分を反映 現状見込 売上高：750M (当初+300M) 営業利益：10M (当初+10M) のれん：12年償却とし算出 (当初+38M) * 負担増
営業利益	80	342	+262	
調整後 EBITDA	425	725	+300	
経常利益	55	317	+262	・ 借入減少と為替変動減少 (株主ローン相殺のため) により、 営業外は変更せず
親会社 純利益	17	217	+200	・ 増益に合わせトータルで実効税率30%に調整

- DS AI Infrastructure Global Investment Fundの設立準備の進捗により、売上高362百万円を今期に計上する見込み
- MSSの連結子会社化により、売上高が300百万円上回見込み
- 連結売上高は、前回発表予想を662百万円上回る3,312百万円となる見込み

- 業績上方修正を踏まえ、年度では大幅な増収増益を計画

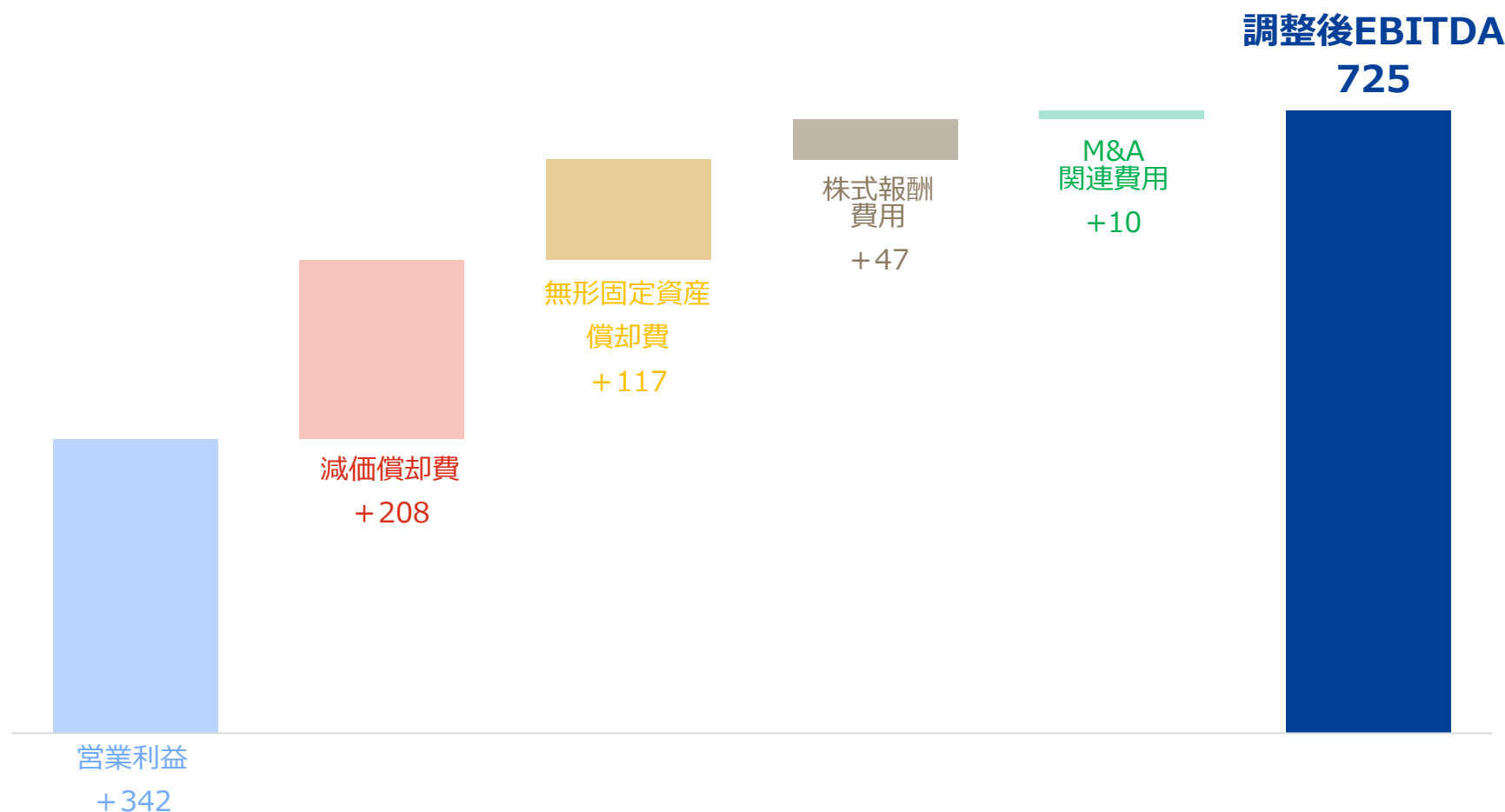


- 調整後EBITDAについても業績予想修正による利益要因を主因に大幅に伸長予定

※調整後EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 無形固定資産償却費 + 株式報酬費用 + M&A 関連費用

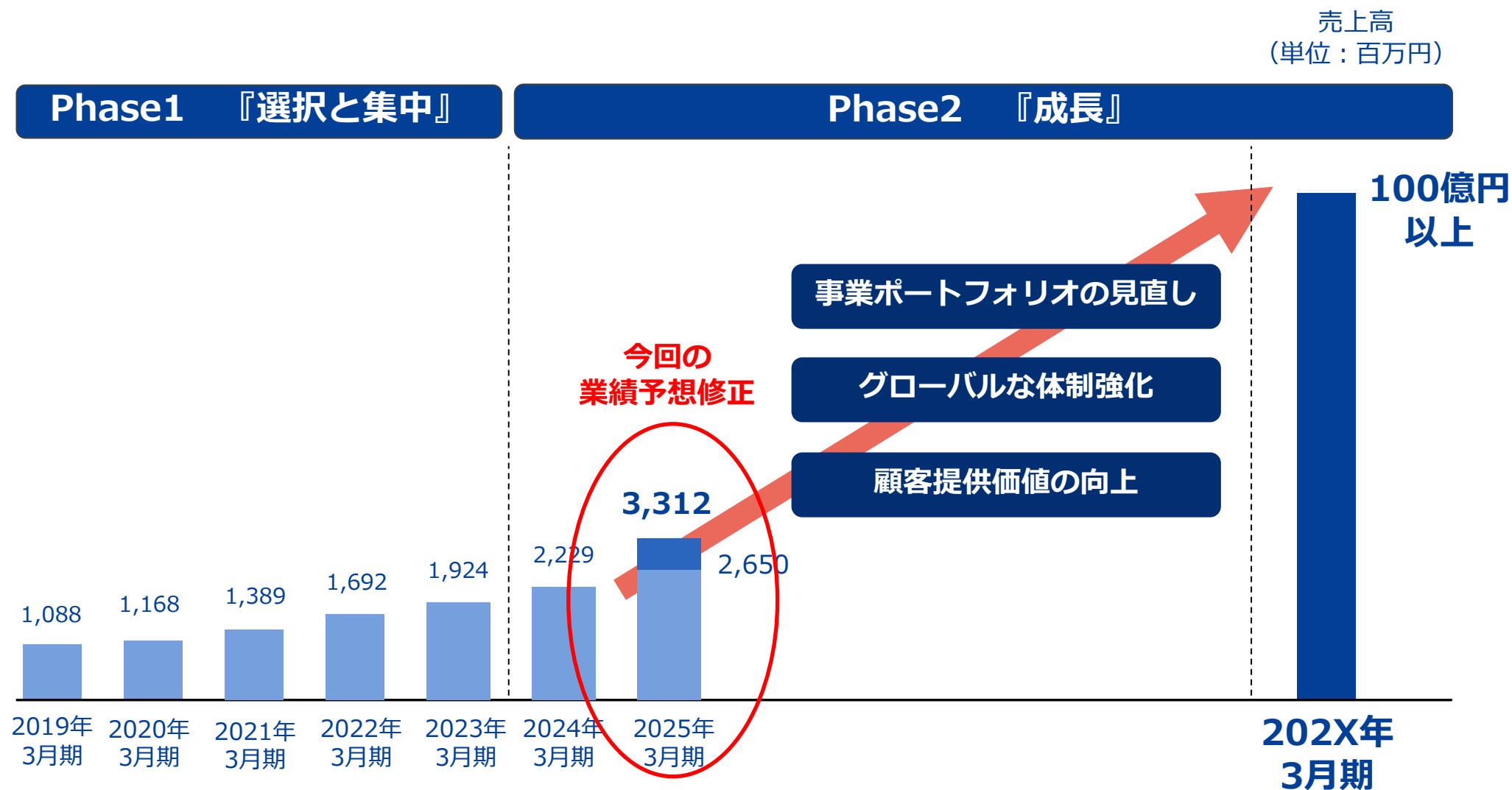
<25年3月期 上方修正後計画>

(単位: 百万円)



3. 新戦略（AI関連新規事業）

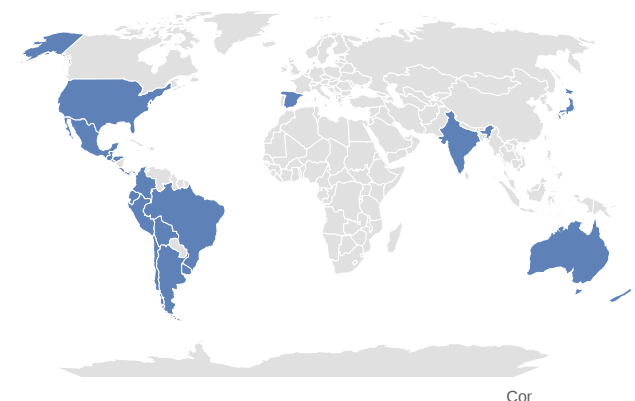
『選択と集中』から『成長』フェーズへ
AI関連新戦略の協力的な推進



強力なグローバルプレゼンスと
独自のビジネスプランをベースに、
AI市場でのリーディングカンパニーを目指す

- 新規事業を加速する上で不可欠な技術確保を加速
 - ・ 優秀なエンジニアリングリソース確保
 - ・ AIクラウドサービス向けプラットフォーム開発
- AI業界で強力なパートナーシップ・ネットワークを有する
- 2024年6月3日にアジア最大規模のAIデータセンター開発を合意
- 今後もグローバルにAIデータセンターの建設と運営を追求

当社のグローバル展開



当社は20か国以上へ自社プロダクト展開の
事業基盤を有する

日本
インド
オーストラリア
ニュージーランド
チリ
コロンビア
ペルー
アルゼンチン
エクアドル
ボリビア
ブラジル
ウルグアイ

パナマ
グアテマラ
ホンジュラス
エルサルバドル
コスタリカ
スペイン
メキシコ
米国・・・

AIデータセンター事業を取り巻く環境

AIデータセンターに必要な主要機能

業界が直面するチャレンジ

開発時



GPU

NVIDIA社製品が市場で逼迫



サーバー等
周辺機器

NVIDIA社のパートナーメーカーの
生産キャパシティが逼迫



土地・設備

ゼロから開発する場合3年以上かかる



EPC

建設ラッシュで建設業者を確保できない

運営 開始後



AIクラウド運営

ハイパースケーラー級の最高効率・
操作性のプラットフォームは開発が困難



データセンター
運営

最新機器を運転できる知見を有する
企業が限られる



電力

電力容量が日本中で逼迫



顧客開拓

競合に先んじて機能をテストしないと、
大規模な顧客を確保は難しい



当社は、AIデータセンター事業が直面するチャレンジを克服することで、ハイパースケーラーに対しても競合優位性を獲得していく

データセンター事業のチャレンジ

データセクションの戦略

実現したビジネスモデル



以下課題を解決できる事業者のみがデータセンター事業で成功

- 政治リスクを回避しながら、GPU・サーバーを確保可能か
- AIデータセンターの基盤ソフトウェアの技術開発力を有しているか
- 速い速度で開発・建設を終えることが可能か
- 大量の電力キャパシティが確保できるか

技術を軸とした戦略的提携で業界のボトルネックを抑え、最速で事業化実現

- 1 台湾の強豪メーカーとパートナーシップを構築、優先的にGPU確保
- 2 2014年上場以降、技術者がAIクラウドを更に強化
- 3 業界経験を有する建設事業者と協業し、早期にキャパ計画を構築
- 4 電源はあるが稼働停止している工場をリパーパスする手法を確立

当社の戦略により、すでに以下の実績を実現済み

- NVIDIA社の台湾の委託製造パートナー4社とGPU確保に関し協業で合意
- AIモデルの推論、GPUの効率を最大限発揮させるDSクラウドスタックを開発
- 欧州・アジアで実績を持つCUDOとSSIと業務提携
- 堺市・スペインで、既存工場をリパーパスするAIデータセンターの建設に合意

2024年11月15日／11月21日／12月2日／12月23日

NVIDIA社のパートナーサプライヤーである台湾メーカー4社と業務提携の基本合意。
大阪府堺市やスペイン向けを始めとしたGPUサーバーラックについて、製造キャパシティを継続協議

NVIDIA社はパートナーのサーバーメーカーが存在



サーバー調達の分散化とボリューム確保状況 (サーバーサプライヤー別の交渉状況)



NVIDIA と世界有数のサーバー メーカーがパートナーを組み、AI クラウド コンピューティングを推進

Foxconn、Inventec、Quanta、Wistron が NVIDIA HGX リファレンスアーキテクチャを利用し、ハイパースケールデータセンター向け AI システムを構築

台湾、台北 Computex -- (2017 年 5 月 30 日) - NVIDIA (NASDAQ: NVDA) は、より迅速に AI クラウド コンピューティングの需要に応えるため、世界有数の ODM である Foxconn、Inventec、Quanta、Wistron とのパートナープログラムを開始しました。

NVIDIA HGX パートナー プログラムを通じ、NVIDIA は、各 ODM に NVIDIA HGX リファレンスアーキテクチャ、NVIDIA GPU コンピューティング テクノロジー、デザイン ガイドラインの早期アクセスを提供します。HGX は、Microsoft の Project Olympus の取り組み、Facebook の Big Basin システム、NVIDIA DGX-1™ AI スーパーコンピュータにおいて利用されているのと同じデータセンター向けに設計されています。

HGX をスターター向けの「レシピ」として利用する ODM パートナーは、NVIDIA と協力し、ハイパースケールデータセンター向けの条件を満たす、さまざまな GPU アクセラレーテッド システムをより迅速に設計し、市場化することができます。NVIDIA のエンジニアは、このプログラムを通じて ODM とより緊密に協力し、技術の採用から実動環境への展開までの時間が最短になるよう支援します。

NVIDIA HGX リファレンスアーキテクチャ



出典：日本経済新聞「鴻海、AIサーバーで稼ぐ 14日に4~6期決算(2024年8月13日)」

- ・ オープンソースなAIモデルを使用しての推論（AIモデル同士で出力結果の検証・洗練の推進）が、効率的、柔軟、手軽に出来る初めてのクラウド基盤ソフトウェア



※2025年3月期中に正式に内容をプレスリリース予定

2024年10月 7 日

データセンター設計・建設の実績・ノウハウを持つSSI社と、AIデータセンターの設計、調達、建設および運営に関するEPC（Engineering Procurement and Construction）の業務提携に関する基本合意を締結

経営によるコメント

- データセンター設計・建設の実績・ノウハウを持つ SSI社と本基本合意を締結し、AIデータセンターの設計・建設・運営におけるリーディングカンパニーとして、革新的なソリューション提供を目指し、次世代のAIデータセンターのスタンダードを確立し、より持続可能で効率的なサービスの提供を実現します
- 本基本合意に基づき、SSI社は当社のEPCコントラクターとして共同で日本国内外でのAIデータセンターの設計、調達、建設、運営に関する業務を担うこととなります。また、SSI は AI データセンター建設後の運用・保守業務も担当し、新たなAIデータセンタープロジェクトの組成、資金調達、推進にも取り組みます

(1) 名称	株式会社信越科学産業	
(2) 所在地	長野県長野市大字南長野西後町610-12 R-DEPOT3階N-西	
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役会長 小坂 幸太郎 代表取締役社長 佐坂 五郎	
(4) 事業内容	・データセンター設計・建設	
(5) 資本金	999万円	
(6) 設立年月日	2015年12月28日	
(7) 大株主及び持株比率	SSIとの秘密保持義務により非開示とさせていただきます。	
(8) 上場会社と当該会社との関係	資本関係	該当事項はありません。
	人的関係	該当事項はありません。
	取引関係	該当事項はありません。
	関連当事者への該当状況	該当事項はありません。
(9) 経営成績及び財政状態	SSIとの秘密保持義務により非開示とさせていただきます。	

出典：SSI

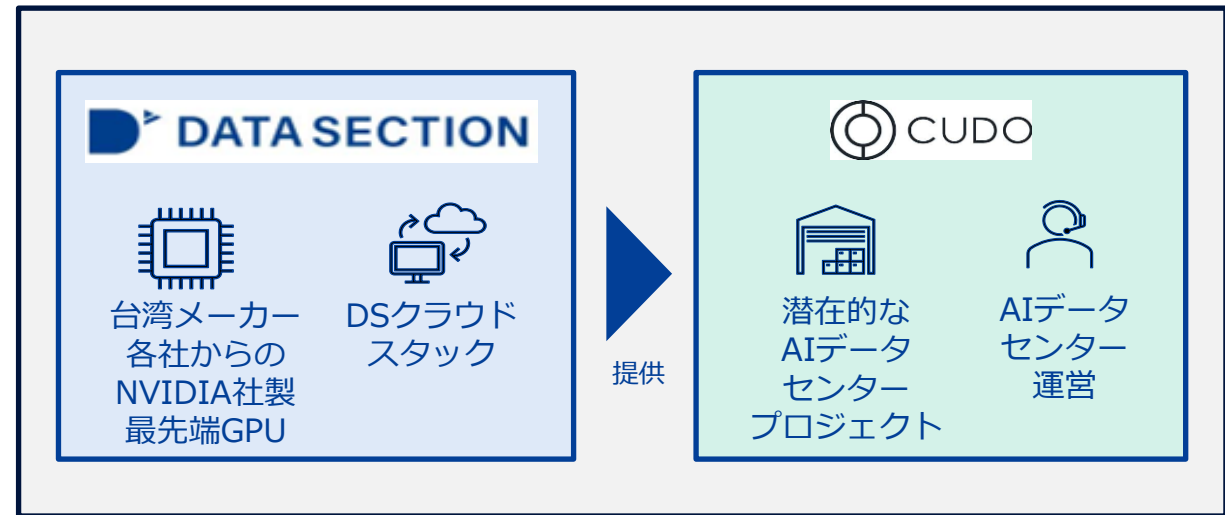
2025年2月6日

NVIDIA社認定のAIパートナー（NVIDIA Cloud Partner、以下「NCP」）のCUDO Ventures（以下「CUDO社」）とAIデータセンター事業にかかる業務提携契約を締結、両者間の資本提携についても協議中。本提携により、NVIDIA社製最先端GPU確保と、当社のDSクラウドスタックの早期提供が可能に

CUDO社の概要

- 英国所在
- NVIDIA社認定のNCPとして、AIクラウドスタックとデータセンターインフラにの高い技術力を有する
- AI用に何千ものNVIDIA社のGPUを米国、中東・アフリカ、ヨーロッパ、アジアで管理・運用しており、GPUaaS、ストレージ、ネットワーキング、マネージドサービス提供
- 2024年5月にNCP認定を受けて以来、AIデータセンターの業容拡大が加速

本提携の内容



- CUDOとの提携によりAIデータセンターの稼働へ向けた必須要素全てが早期に揃う
- CUDO社が運営を行う潜在的プロジェクトに、NVIDIA社製最先端GPUの確保、当社のDSクラウドスタックを早期に提供可能に

・GPU確保、及びプロジェクト開発に必要となる資金調達のためファンドは設立済み

	項目	詳細
1	名称	DS AI Infrastructure Global Investment Fund
2	所在地	ケイマン籍
3	組成目的	グローバルでのAIデータセンターへの出資 (ファンドはAIデータセンターを運営する会社の株式を保有)
4	組成日	2025年3月までを目途 ※当初の2024年内から変更しております
5	ファンド出資	目標20億米ドル
6	General Partner (GP)	名称 DS AI Investment (仮称) 投資チーム ■ Pablo Casado Blanco (当社会長) ■ 石原紀彦 (当社代表取締役社長CEO) ■ Matias Jurado Alvarez 他 アドバイザリーボード HE Anders Fogh Rasmussen (NATO元事務総長、デンマーク元首相) 他 Co-GP 欧州系銀行がCo-GPとして参加を検討中 GP出資額 ファンド総額の1.0% (キャピタルコール方式*) GP報酬 ■ ファンド総額の2.0% (年率) ■ キャリードインタレストの20.0% (8.0%のハードルレート)
	Limited Partner (LP)	主に欧州銀行、AIデータセンターの連携パートナー企業を中心に投資予定

* キャピタルコール方式：ファンドの投資進捗に応じて、出資コミットメント金額の範囲内で段階的に資金提供



既存プロジェクト実現を通じた
安定収益の獲得

2025年3月期

- 技術検証、サービス体制構築、顧客契約締結
- DSAIファンドの形成による実行資金の確保、GPロールの開始
- 国内外のデータセンター事業運用開始、売上計上を目指す

現行ビジネスモデルのグローバル
拡大による成長

2026年3月期

- 堺・スペイン事業の型紙化と、更なる案件の積み上げ
- アルゴリズムの進化と、冷却技術の開発協力により、高効率なAIデータセンター運営の手法を確立
- ファンドを通じた資金調達の拡大

AIデータセンター事業の対象顧客
の拡大、および資産を入れ替え

2027年3月期以降

- 現行ビジネスモデルの規模・安全性進化により、安全保障上不可欠となる国家プロジェクトへの参画（欧州・米国・日本）
- 株式・ファンド等の手法を通じて資金調達を最大化し、ハイパースケーラーのポジションを確立
- 資産の入れ替えと、中古サーバーの再利用を通じてさらなる事業拡大・継続

4. 新規予約権発行によるファイナンス

- 第20回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行
- 資金需要や市場環境等を勘案し、より柔軟かつ機動的な資金調達を行うとともに、既存株主の持分の希薄化への影響に配慮しながら自己資本を増強することが可能な設計

第20回新株予約権（行使価額修正条項付き）	
割当先	ハヤテマネジメント株式会社 (以下「ハヤテ」)
基準株価	688円
当初行使価額	688円 ※基準株価の100%
行使価額の修正	直前取引日の終値×90%（1円未満切り上げ）
下限行使価額	344円 ※基準株価×50%
発行価額	総額15,488,000円（1個当たり3.52円）
発行新株予約権数	44,000個（1個当たり100株）
行使期間	2025年3月7日～2026年3月6日（1年間）
調達予定金額*	3,009,200,000円 @ 当初行使価額 = 688円 1,495,600,000円 @ 下限行使価額 = 344円
希薄化率**	24.85%
資金使途	(1)DSクラウドスタックの開発・構築資金 (2)AIデータセンター運営関連の合併会社向け出資、DSAIファンド向け出資 (3)採用費、人件費、手元資金等の運転資金 (4)借入金返済

* 当初行使価額×総発行株数－発行諸費用概算で算出。発行価額の総額は、割当予定先の当社に対する貸付債権との相殺による払込みとなるため、調達予定金額には含まず

** 本新株予約権がすべて行使された場合に交付される株式数4,400,000株（議決権の数44,000個）となり、2025年2月13日現在の当社の発行済株式総数17,703,051株（2024年9月30日（当社が総議決権を確認できる本発行決議日から最も近い日）現在の総議決権数176,279個）に占める割合が24.85%（議決権ベースの希薄化率は24.96%、いずれも小数点以下第3位を切り捨て）に相当

- メリット、デメリットを総合的に勘案した結果、今回の資金調達手法が当社のニーズを充足し得る現時点での最良の選択であると判断

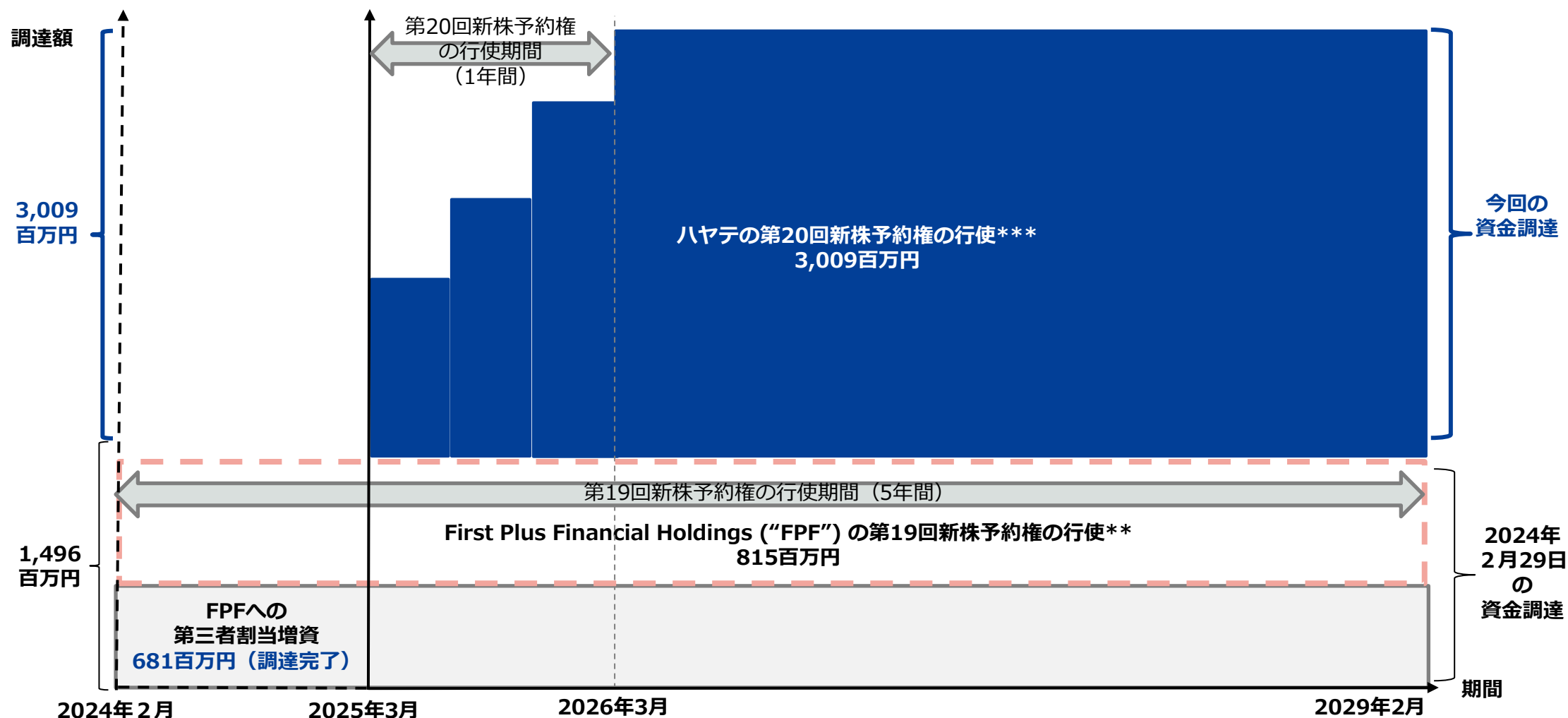
メリット

- **過度な希薄化の抑制**
 - 最大交付株式数が限定されており（但し、株式分割等の株式の希薄化に伴う行使価額の調整に伴って、調整されることがある。）、当初見込みを超える希薄化は生じない
 - 下限行使価額が設定されており、経済的な意味の希薄化も一定限度を超えて生じない
- **株価への影響の軽減**
 - 各修正日の直前取引日の終値を基準として修正される仕組みとなっており、行使価額が上方にも修正される可能性がある
 - 行使数量制限が定められ、複数回による行使と行使価額の分散が期待される
- **将来的な株価上昇の場合、希薄化を軽減可能**
 - 上限行使価額の設定はなく、株価が上昇した場合、行使価額も対応して上昇し、希薄化抑制も可能
- **その他**
 - 割当予定先であるハヤテは行使による取得する普通株式の長期保有意思を有しておらず、及び経営に関与する意思を有していない

デメリット

- **調達額が予定額を下回る可能性**
 - 下限行使価額が設定され、発行後の株価水準次第で、一部又は全部の行使がされない可能性がある
 - 行使価額が下方にも修正される
- **資金調達の長期化**
 - 株式の流動性が減少した場合は、資金調達完了までに時間を要する可能性がある
- **経営戦略へ影響を及ぼす可能性**
 - 上記のように調達額が予定額を下回る場合や資金調達完了までに時間を要する場合、資金使途に適時に充当できない可能性や、経営戦略の遂行に影響を及ぼす可能性もがある
- **今後の資金調達方法の制約**
 - ①当社及びその関係会社の役員及び従業員を対象とする新株予約権又は譲渡制限付株式報酬制度に基づく株式発行や②他の事業会社との間で行う業務上の提携を除き、一定期間、割当予定先による事前の書面同意がない限り、株式、新株予約権等又はこれらに転換し若しくはこれらを取得する権利が付与された証券の発行が出来ない

- 2024年2月29日の資金調達で681百万円を調達済み
- 今回の資金調達として**3,009百万円***を調達予定



* 第20回新株予約権は当初行使価額ですべて行使されたと仮定した場合の調達額を算出

** 第19回新株予約権は2024年8月22日時点で0個行使。当社の資金需要に応じてFPFは行使する方針だが、株価動向次第では行使が行われない可能性あり

- 2024年8月20日公表「2025年3月期第1四半期決算説明資料」のAI関連新戦略の遂行にあたり、主に以下の3点に支出予定

(i) DSクラウドスタックの開発・構築資金

- 金額：1,000百万円
- 支出予定期間：2025年3月～2025年6月
- 概要：
 - ・DSクラウドスタック（AI向け大規模GPUクラスターの運用最適化アルゴリズム）の開発・構築費用
 - ・外部委託先のNNJ社^(*)からの協力を得ながら共同開発、同社への外部委託費に充当。当社グループ内の発生費用は（iii）より充当予定

(ii) AIデータセンター運営関連の合併会社向け出資、DSAIファンド向け出資

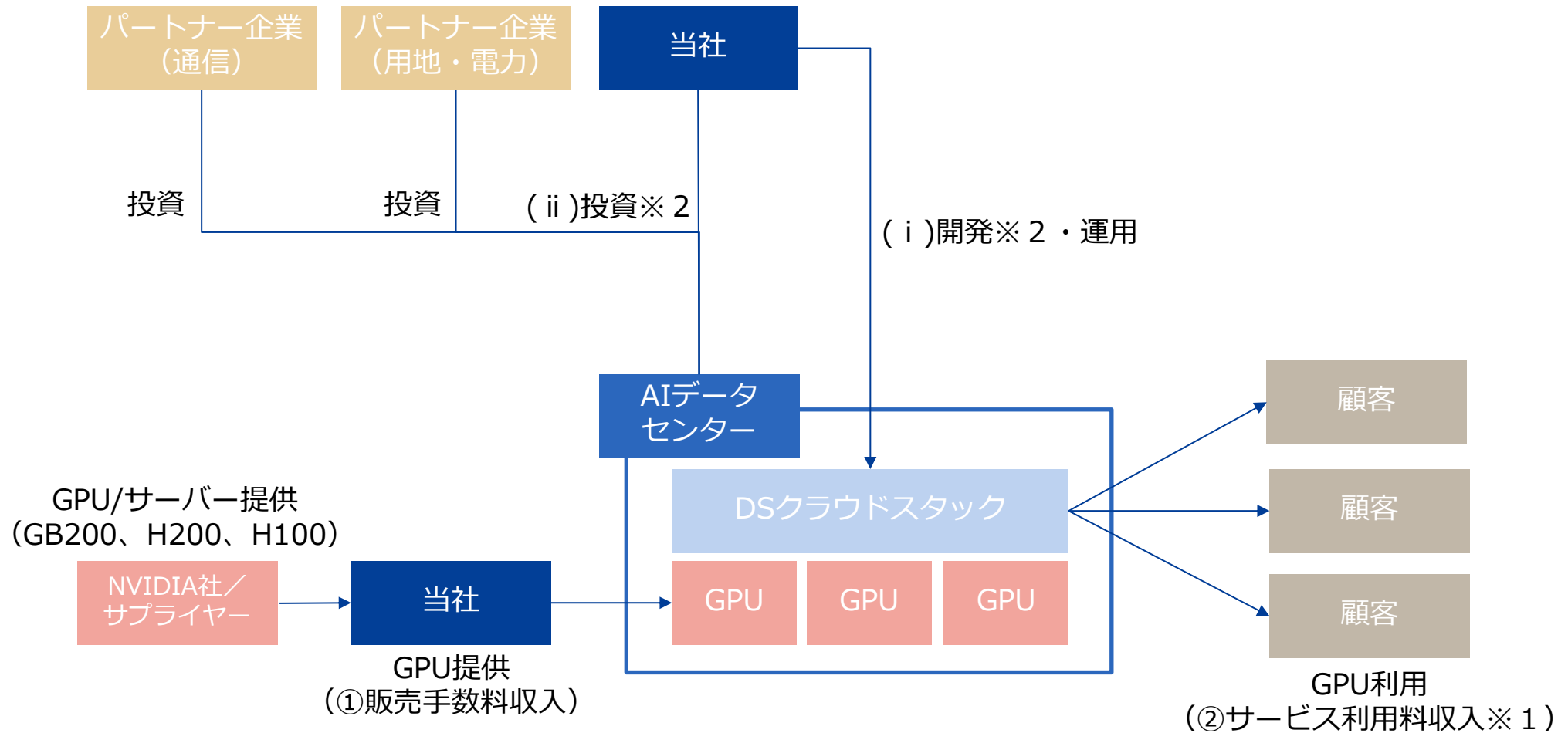
- 金額：709百万円
- 支出予定期間：2025年4月～2026年3月
- 概要：
 - ・AIデータセンター運営関連の合併会社向け出資、又は、
 - ・当社がGP若しくはCo-GPとなり、グローバルでのAIデータセンター等のAIインフラを投資対象とするDSAIファンドの組成、当該ファンド向け出資

(iii) その他（採用費、人件費及び手元資金等の運転資金、並びに、借入金返済）

- 金額：700百万円（採用費、人件費、手元資金等の人件費）、600百万円（借入金返済）
- 支出予定期間：2025年4月～2027年3月（採用費、人件費、手元資金等の人件費）
2025年3月～2026年2月（借入金返済）
- 概要：
 - ・当社グループにおけるグローバルベースでのAIデータセンター・AIクラウド事業を担うエンジニア及びコーポレート部門要員の採用費、並びに人件費及び手元資金等の運転資金
 - ・財務健全性の向上を図るための借入金の返済（ハヤテからの384百万円の借入金含む）

^(*) ナウナウジャパン株式会社（所在地：東京都中央区、代表者：近江 麗佳、以下「NNJ」）

- AIデータセンターを直接投資型の場合は、**2パターンの売上構造**
- AIデータセンター投資からのリターン



※1 顧客のGPU利用によるサービス利用料収入は、当社とAIデータセンターでシェア

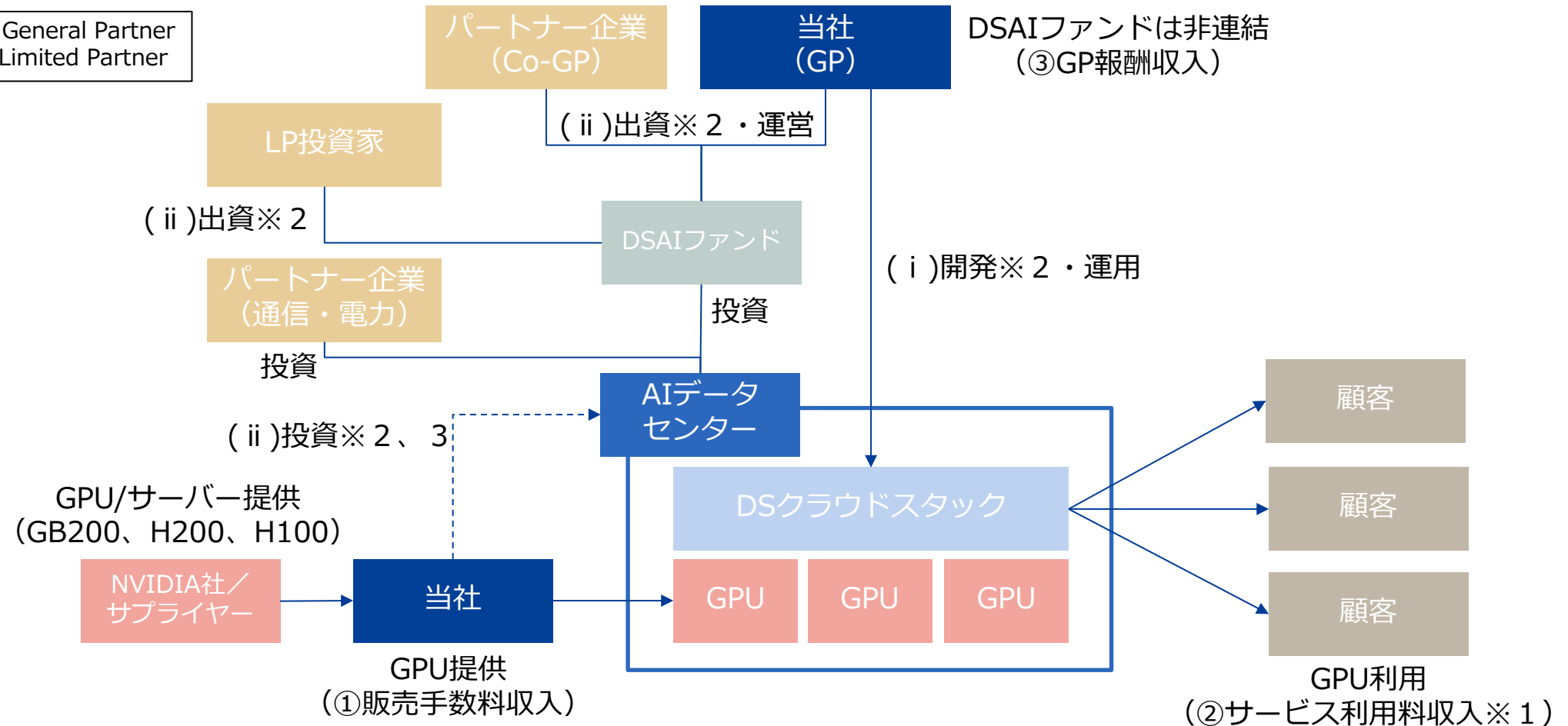
※2 今回の資金調達による資金用途の一部は以下

(i) DSクラウドスタックの開発・構築資金：1,000百万円

(ii) AIデータセンター運営関連の合併会社向け出資、DSAIファンド向け出資：709百万円

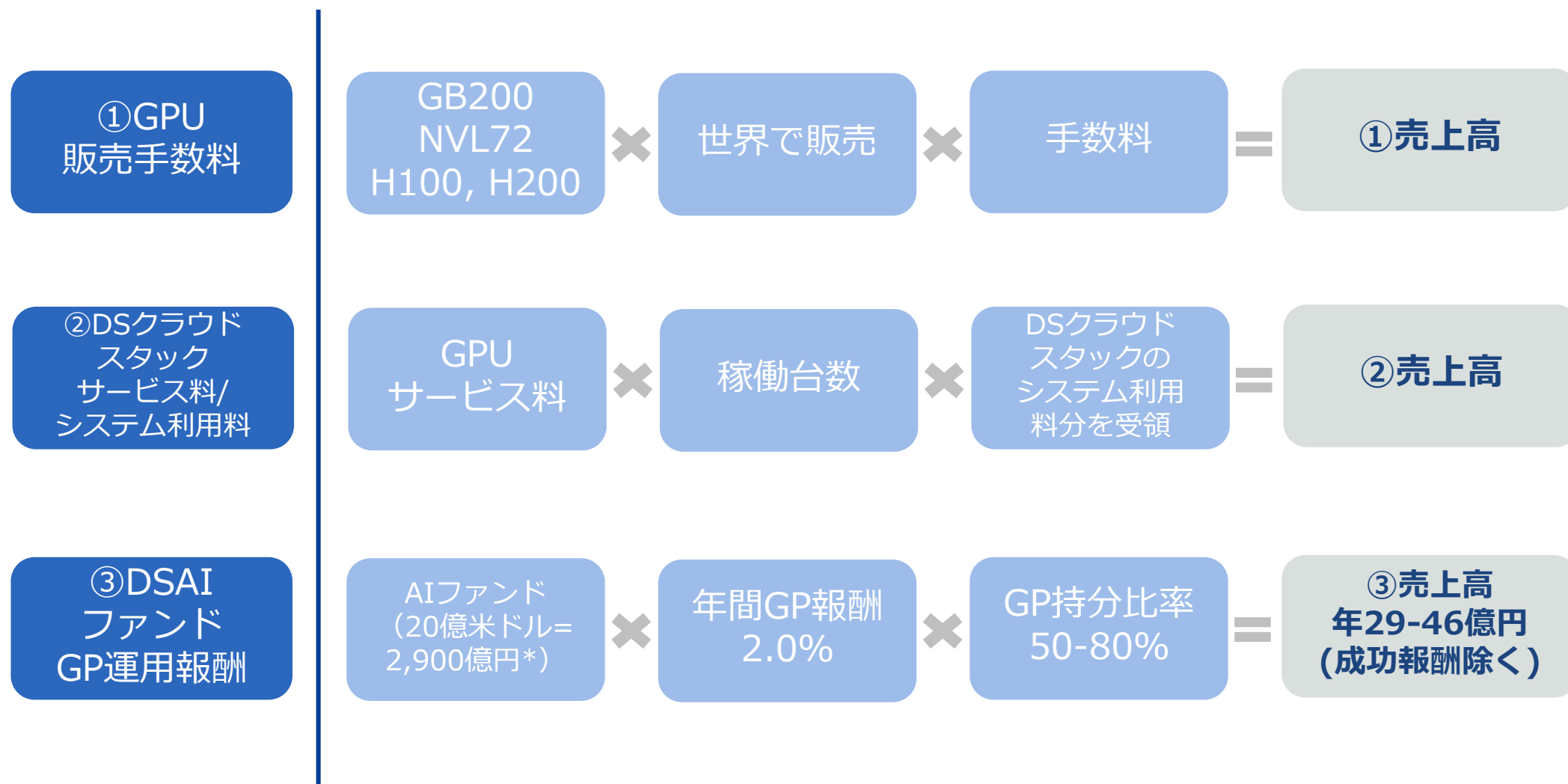
- AIデータセンターをファンドから支援する場合は、**3パターンの売上構造**
- DSAIファンド投資からのリターン

GP = General Partner
LP = Limited Partner



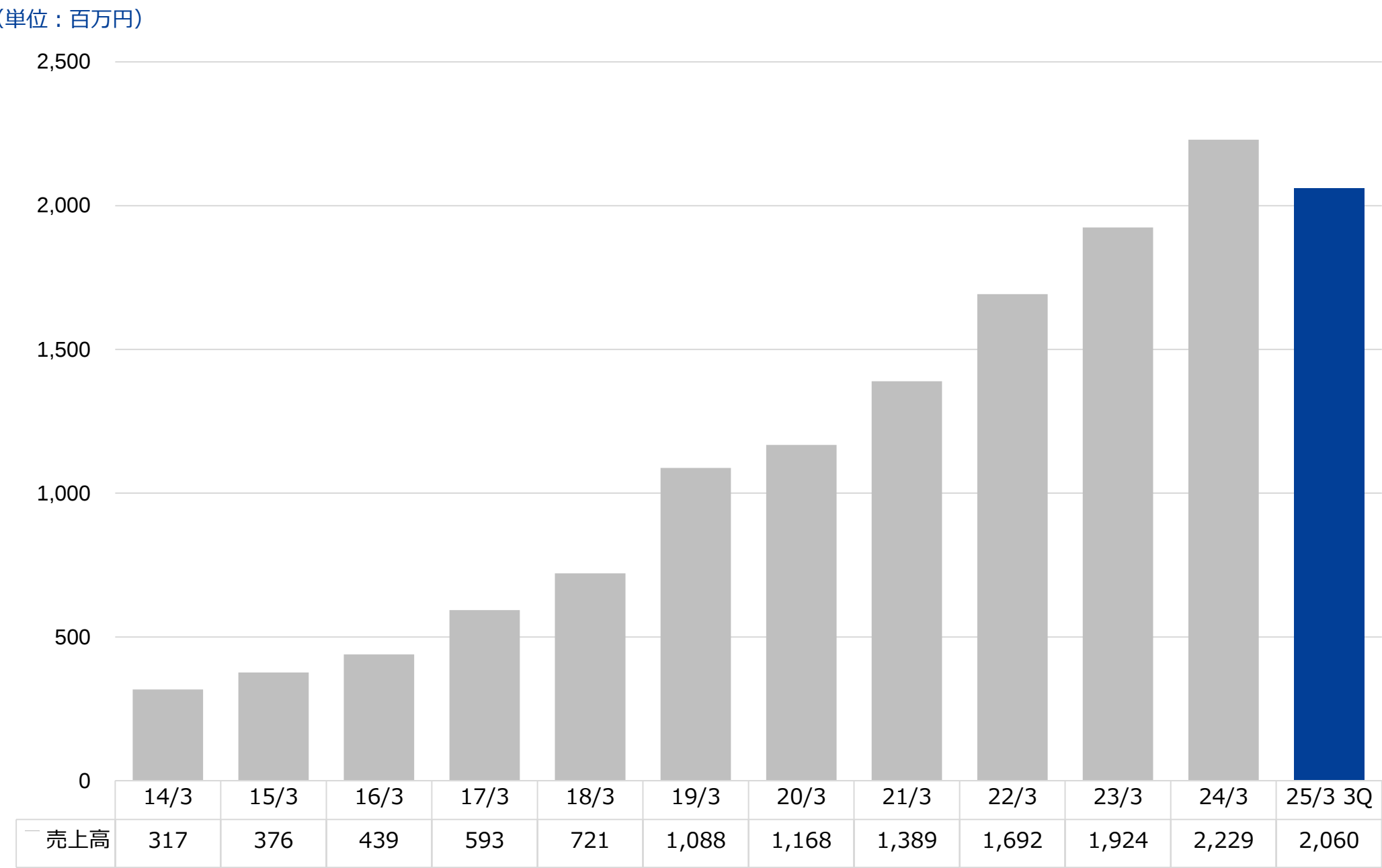
- ※1 顧客のGPU利用によるサービス利用料収入は、当社とAIデータセンターでシェア
- ※2 今回の資金調達による資金使途の一部は以下
 - (i) DSクラウドスタックの開発・構築資金：1,000百万円
 - (ii) AIデータセンター運営関連の合併会社向け出資、DSAIファンド向け出資：709百万円
当社がLP投資家としても出資を行う可能性あり
- ※3 当社が直接投資するAIデータセンターもDSAIファンドの投資対象となる可能性あり

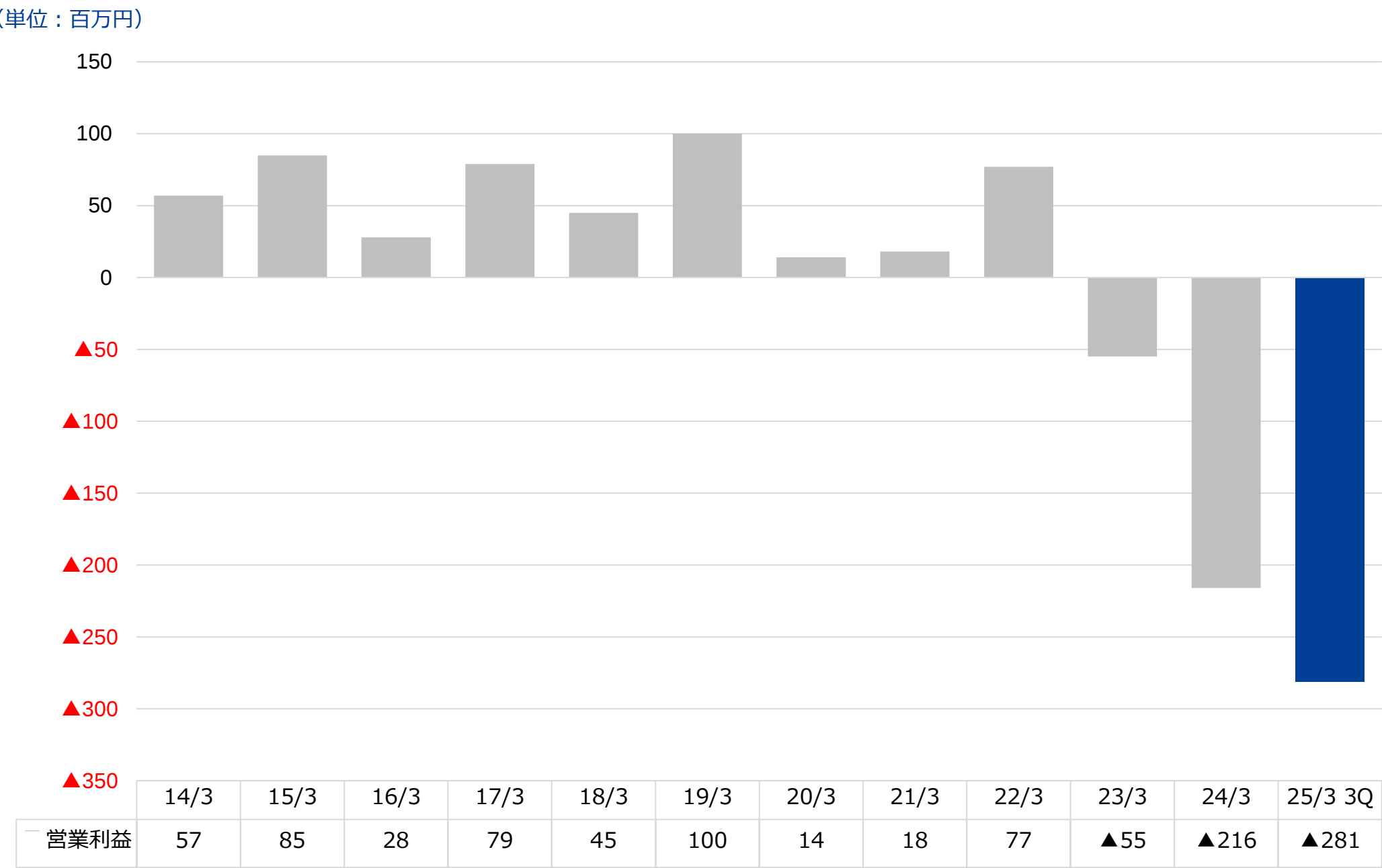
- 新規事業であるAI関連事業からは、主に以下の**3パターンの収益**を想定

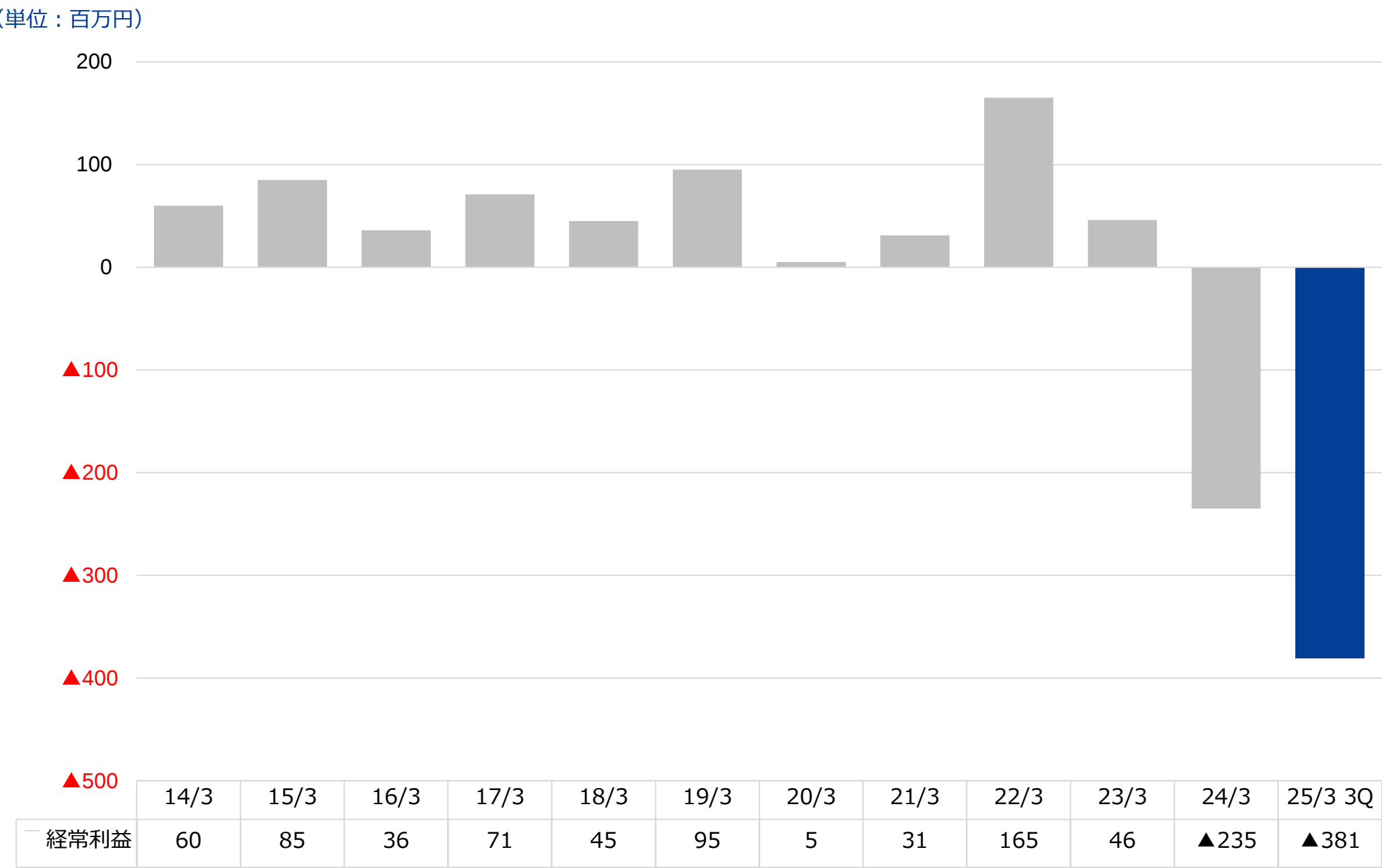


(*) 2024年8月20日開示の2025年3月期(1Q)決算説明会資料と同じ為替レートを使用

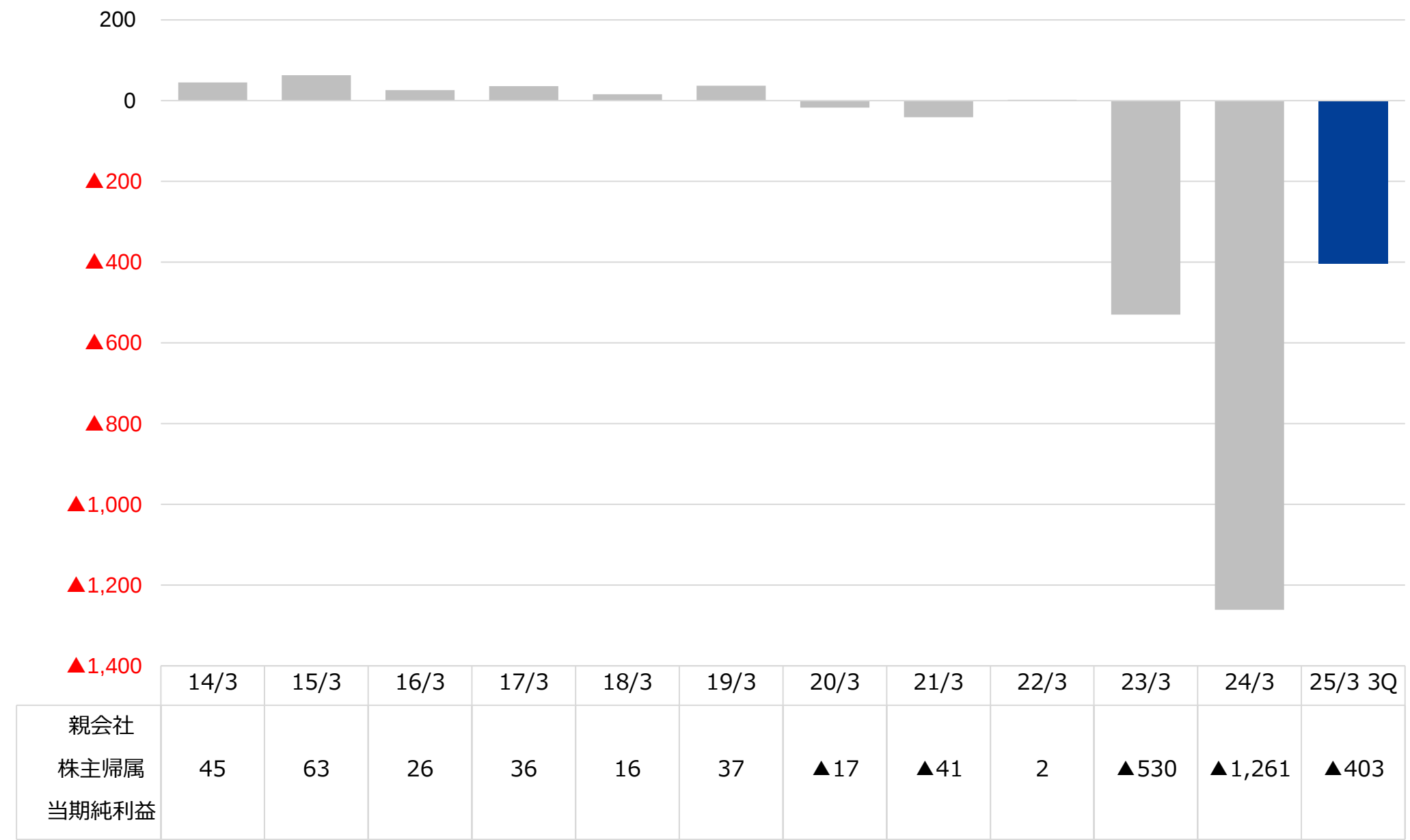
5 . Appendix







(単位：百万円)



データセクション株式会社

ir@datasection.co.jp
03-6427-2565

〒141-0031

東京都品川区西五反田 1 丁目 3 - 8 五反田PLACE 8階

<https://www.datasection.co.jp>

注意事項

- 本資料は投資家の参考に資するため、当社の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しで、リスクや不確実性を含んでおり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。従いまして、これらの業績予想のみに全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。